

2010年度も引き続き、澤田豊成神父様（聖パウロ修道会）が講師としてご協力くださることになりました。

今年は、「聖ヨハネ福音書とともに聖地を歩む」と題して、「主イエスに愛された弟子」というユニークな視点から、聖地を旅する私たちの心の糧となるお話をしてくださいませ。私たちが「人（肉）となられた神のことば」と出会うための素晴らしいヒントをいただけるに違いありません。

聖地巡礼をなさりたい方はもちろん、すでに行かれた方にも、とても有意義なお話です。どうぞご期待ください。

道の会 井上弘子／瀬川眞佐子

この勉強会は、聖地に興味と関心のあるすべての方のために開かれています。ご家族・お友達もお誘いください。



春の花が咲き乱れるガリラヤ湖のほとり

2010年〈聖地の旅〉定例勉強会 ヨハネ福音書とともに 聖地を歩む

【1】2月14日 【2】3月14日 【3】4月11日 【4】5月9日 【5】6月13日
【6】7月11日 【7】9月19日 【8】10月10日 【9】11月14日 【10】12月12日
(いずれも日曜日)

時間：午後2時～4時(勉強会終了後主日のミサがあります)

講師：澤田 豊成師(聖パウロ修道会)
井上 弘子(道の会)

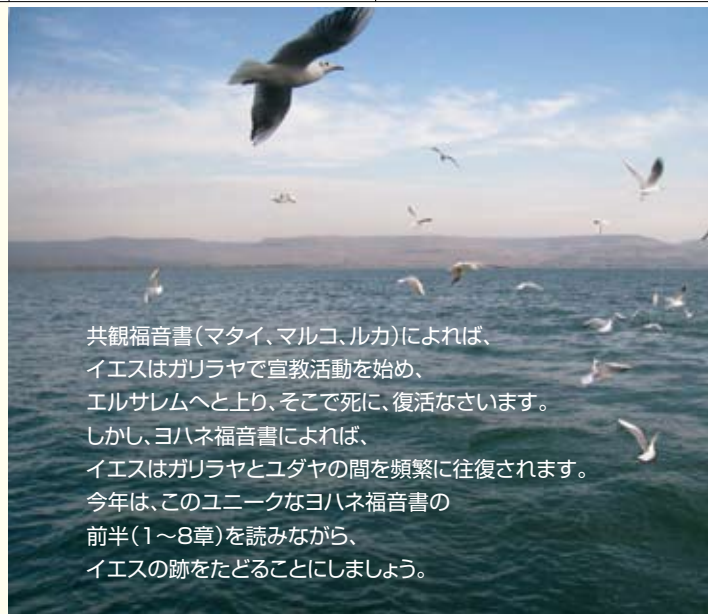
会場：サンパウロ宣教センター 4階
(JR・地下鉄四谷駅四谷口 徒歩2分)

会費：1,500円/回

内容：聖書、映像、資料などを用いて、イエスがよき訪れを告げ知らせ、救いのみわざを成し遂げられた聖書の世界をご紹介します。

澤田豊成師 プロフィール

1965年東京に生まれる 1989年から、ローマのグレゴリアン大学神学部にて学士課程、修士課程(聖書神学専攻) 1996年神学修士号取得、同年帰国し、司祭叙階現在、サンパウロ宣教企画編集部にて出版をとおしての宣教に従事するかたわら、日本カトリック神学院、聖アントニオ神学院にて講師を務める



共観福音書(マタイ、マルコ、ルカ)によれば、イエスはガリラヤで宣教活動を始め、エルサレムへと上り、そこで死に、復活なさいませ。しかし、ヨハネ福音書によれば、イエスはガリラヤとユダヤの間を頻りに往復されます。今年は、このユニークなヨハネ福音書の前半(1～8章)を読みながら、イエスの跡をたどることにしましょう。

ガリラヤ湖に群れ飛ぶカモメ

1 2月14日 言(ことば)は肉となった (1・1-18)

ヨハネ福音書は冒頭で、イエスを神の永遠の「言(ことば)」として描き、この「言」が肉となったと宣言します。永遠なる方が、わたしたちと同じ人間として、時と場所の中にお生まれになったのです。福音は、永遠の価値を持つと同時に、時と場所の中でその意味を輝かせるのです。
* ガリラヤ：イエスのふるさと、ナザレ・カナ・タボール山

2 3月14日 ベタニアで 洗礼者ヨハネとイエス (1・19-42)

洗礼者ヨハネは、イエスが神の子であることを証します。しかし、ヨハネ福音書は、彼がイエスを知らなかったことを強調します。洗礼者ヨハネの証しは、人間の知恵によるものではなく、霊の働きによるものです。
* ヨルダン川：清水ほとばしる水源から死海まで

3 4月11日 ガリラヤで 召命の連鎖 (1・35-50)

共観福音書と異なり、ヨハネ福音書は弟子たちの召命を、次々に広がっていく「連鎖」として描いています。イエスの呼びかけは、呼びかけられた人とおして、ほかの人に広がっていきます。しかし、その中心には常にイエスがおられます。
* 召命の舞台、ガリラヤ湖の美しい自然

4 5月9日 エルサレムで 霊によって生まれる (3・1-21)

イエスは、ガリラヤのカナで最初のしるしをなさった後、過越祭のためにエルサレムに行かれます。ここで、イエスはユダヤ人議員ニコデモの訪問を受けます。ニコデモとの問答をとおして、肉ではなく霊によって新たに生まれることの必要性が明らかになります。
* 約束の地への通り道、荒れ野の厳しさと雄大さ

5 6月13日 サマリアで 霊と真理による礼拝 (3・1-4・42)

イエスの対話の相手は、ユダヤ人からサマリア人に移ります。しかも、サマリア人の「女性」です。イエスのメッセージは、飲み水や夫婦関係といった現実的なことから出発して、霊的・超自然的な神秘へと分け入っていきます。
* 「サマリア」の昔と今

6 7月11日 ガリラヤで イエスの言葉と信仰 (4・46-54)

イエスは再びガリラヤにお戻りになります。イエスの相手は、今度は王の役人です。彼がイエスの言葉を信じたとき、イエスの言葉の力が働き、彼の息子を癒します。その事実によって、彼が信じたとも記されています。信仰がイエスの救いを生み出し、イエスの救いのわざが信仰を生み出していく様子が描かれています。
* ガリラヤ湖の向こう岸：異邦人の地

7 9月19日 エルサレムで 御父とイエスの関係 (5・1-47)

ユダヤ人の祭のため、イエスはエルサレムに行かれます。そして、安息日に神殿で病人を癒すのです。イエスが安息日に病気を癒されたこと、また神を「父」と呼ばれたことは、ユダヤ人を怒らせます。そこで、イエスご自身と御父の関係についてお教えになります。
* 旧約時代のエルサレム：ダビデの町とその歴史

8 10月10日 ガリラヤで まことのパンであるイエス (6・1-71)

イエスは、ガリラヤへ行き、パンを増やして大勢の人にお与えになります。この奇跡を見てイエスのもとに集まって来た群衆に、イエスは「いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物」、「天からのまことのパン」であるご自身のことについてお話しになります。
* カファルナウム：イエスの宣教の拠点

9 11月14日 エルサレムで イエスの出身地 (7・1-52)

仮庵祭のときに、イエスはまたエルサレムに上られます。エルサレムでは、イエスがメシアであるのかどうかについて議論がなされます。そこで、イエスの出身地が問題になります。メシアが現れるときは、誰もメシアの出身地を知らないはずなのに、人々はイエスの出身地を知っていたからです。
* イエス時代のエルサレム神殿

10 12月12日 エルサレムで わたしはある (8・12-59)

「わたしはある」。これは、主である神がイスラエルの民に知らせてくださったご自身の名です。イエスは、この神の名をご自分にあてはめていわれます。そのため、ユダヤ人たちはイエスを石殺しにしようとしています。イエスが「わたしはある」と宣言することは、何を意味しているのでしょうか。
* 過越の成就：イエスの十字架の道